

(実践報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	地域医療をささえる役割の変化
演者名	1) 辻 政行 1) 辻 早苗 1) 村上 幹雄 1) 片山 展成 1) 橋本 弘史 1) 村上 智彦
所属	医療法人社団 ささえる医療研究所 村上内科・小児科医院

目的

約 40 年にわたって外来や往診で支えてきた患者さんも高齢になり、地域医療に対する役割も変わってきた。地域に根差し、患者さんとしての関わりではなく「ご近所さん」としての関わりも作ってきた。その患者さんが高齢になり、通院困難や老々介護による相談も多くなりこのまま他医療機関や施設に紹介する形でその後の経過はわからない。このような現状に疑問を感じ、看取りまで支えることはできないだろうか。長年、付き合いの深い患者さんに何をどこまでできるかを考えた。

方法

2013 年の 10 月に訪問診療を開始。2014 年の 6 月に介護保険での診療所での訪問看護事業所を開始し、終末期医療の体制を整える。外来にて通院困難になってきた患者さんや独居高齢者への今後の生活への相談を受け、各事業所などと連携を図りながら最後まで患者さんをささえる流れを作る。在宅医療に対する疑問や不安を解消するために定期的に座談会を開催し、患者さんとの意見交換を図った。

結果

外来患者さんから訪問診療の問い合わせが増え始め、当院としての地域医療の役割が増え、さらに地域に根差した医療サービスの提供が可能になった。長年、外来で診てきた患者さんからは馴染みのある医療機関という事での安心感もありスムーズに在宅医療に移行することもできた。また、座談会を開催することで医師以外のスタッフと患者さんの距離を縮めより深く患者さんとの信頼関係が築けた。外来診療中ではなかなか時間が取れず、現状で困っていることの情報を得られたことにより、誰に何を相談してどのように在宅医療をささえていけるかという対策を十分に取ることができた。

考察

長年通ってきた患者さんには、信頼して通っていた医療機関に最後まで診て欲しいという希望が強く安心感も与えられた。患者さんの中には在宅医療に関してなかなか理解していない方が多く、十分な説明が必要だという事もわかった。